



JAグループは、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を基本目標として、組合員、地域から「必要とされ、なくてはならない存在」となることを目指し、さまざまな取り組みを展開しています。

農業を拓く協同組合

JAと農業

監修＝JCA
(日本協同組合連携機構)

第21回

JAが進める「米の消費拡大」

日本人の米の消費量は減少傾向にあります。単身世帯や共働き世帯が増える中で、中食・外食業者等が求めるいわゆる業務用米の需要は増加傾向にあります。JAグループでは、こうした需要への対応を生産者と一体となって進めており、例えば回転寿司チェーン向けには適度な粘りやほぐれやすさを持つ品種、加工米飯メーカー向けには大粒で粘りが少ない品種を選定し、契約栽培に取り組んでいます。近年では国外の需要にも目を向け、輸出の具体化に向けた取り組みを強化しています。

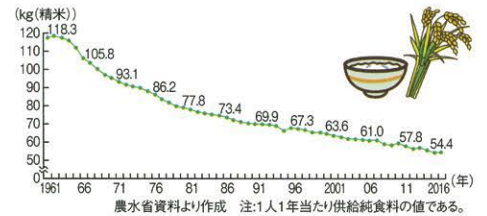
一方、消費者の関心を高めることにも力を入れており、全国レベルでは全農がウェブサイト「NO RICE NO LIFE PROJECT」、全中がウェブサイト「とれたて大百科」を運営しており、米の魅力を総合的に発信しています。また、日本の食卓と豊かな国土を支えてきた稲作農業を学ぶ機会として、次代を担う子どもを対象とする「バケツ稲づくりセット」の配布、『『ごはん・お米とわたし』作文・図画コンクール』などにも取り組んでいます。

語句解説

こめ
【米】

日本の農業産出額(2017年度)は9兆3787億円。そのうち、米は1兆7456億円です。主食用米の収穫量は730万6000t。米の1人当たり年間消費量は、ピークの1962年度の118.3kgから一貫して減少傾向で推移し、2017年度は54.2kgとなりました。業務用米の需要拡大等は見られるものの、主食用米のトータルでの需要量は毎年8万t程度のペースで減少が続いています。こうした状況の中で、飼料用米や米粉用米など主食用米以外の米に取り組む動きが広がっています。

米の年間1人当たり消費量の推移



子ども向け「バケツ稲づくりセット」の取り組み



平成元年(1989)年より始めた「バケツ稲づくりセット」は延べ1000万人を超える子どもたちに配布しました。

ウェブサイトで情報発信



おにぎりを食べてダイエットする方法などを全農のウェブサイトで発信しています。



耕そう、大地と地域のみらい。
(JA広報通信より)

JA広島市の自己改革

生産者の声をもとにした共同購入トラクターを開発

JAグループは、生産資材のコスト低減を目指し、生産者の要望を反映したトラクターの開発と共同購入に取り組んでいます。平成30年度から取り組んでいる大型トラクターに続き、この度28～35馬力クラスの中型トラクターの開発に着手し、令和2年10月からの出荷開始を予定しています。

このトラクターの開発にあたっては、全国1万人以上の生産者へのアンケートや生産者代表との意見交換をもとに、必要な機能を厳選し、右記の機能を搭載したトラクターの開発をメーカーに要求しています。

JA広島市では、JA全農と一体となり、今後、次のようなスケジュールで申込み受付、取り扱い等を行ってまいります。

令和2年2月末まで 事前申込み受付
令和2年7月以降 製品・価格ご案内
令和2年10月以降 出荷開始
ご注文いただいたから納品まで 3～4ヵ月程度

お問い合わせは、各農機センターまたは
指導購買課 ☎082-870-5894 まで

標準3Pオートヒッチ装着可能

前後進含めてノークラッチ変速

長時間作業可能な燃料タンク

自動水平制御

自動耕深制御

倍速ターン

バックアップ

オートブレーキ

農機展示会開催

最新の農業機械の実演や研修会などを行います。共同購入トラクターのご説明もいたしますので、ぜひご来場ください。

日時 2月13日(木)・14日(金)・15日(土)
9:00～15:00(最終日のみ14:00まで)

場所 JA西日本営農技術センター
東広島市河内町入野11631-13